

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	伊万里市立牧島小学校
-----	------------

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習やメディアとの付き合い方について育友会教育講演会や学級活動等で啓発を行っているがあまり改善が見られなかった。家庭学習の充実・ゲームや動画等の視聴時間に関するルールを決めるなど、これからも学校と家庭が連携をして改善していきたい。</li> <li>次年度は複式学級が解消されるため、教育課程編成・学力向上・教職員の働き方改革等をさらに見直し、これまでの成果を生かしながら課題解決に取り組んでいく。</li> <li>今年度は朝の健康観察やリモート授業などにタブレットの活用を広めてきた。個人用タブレットの有効活用をさらに高めるため、職員研修を計画的に実施し、授業での活用やAIDリル等を使った持ち帰りでの活用を通して学力向上に努めていく。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	<p>えがお あふれる 牧島小</p> <p>～よく学び、心豊かで、たくましく生きる「牧島っ子」の育成～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>【知】「確かな学力」の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進</p> <p>【体】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【特色ある学校】「牧島家族」～学校・保護者・地域を一つに～</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・児童にとって分かりやすく全員参加のよい授業を行うために、教材研究に取組み、その実践を行う。 ・校内研究を中心に、児童が主体的に学ぶ姿を全職員で共有し、話し合い活動に基づいた授業実践を行う。 ・教師や児童の振り返りによる調査を行い、分析・考察を行うことで、児童の学習定着の要因を明らかにする。また、学力については、各学期におけるテストやCRTの結果・学習状況調査結果について分析・考察を行っていくことで児童の学力の向上を目指す。	○「授業中は、自分の考えを書いたり話したり、友達のを聞いてたりして最後まであきらめずに勉強に参加していますか。」「先生は、電子黒板や具体物を使って教材を準備し、わかりやすく授業を進めていますか。」「の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。 ○「宿題は家に帰ってすぐに行い、低(30分)、中(40分)高(60分)より多く行いますか。」「の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。	・教職員間で学力向上に向けての方向性を定め、校内研究や研修等により取組の促進を図る。 ・教材研究に努め、児童が主体的に思考し、表現する場を設け、個別最適で協働的な学びが促せる授業を仕組み。 ・家庭への理解を呼びかけ、家庭学習の手引きの活用や学習の様子を知らせることにより、家庭学習の定着を図る。 ・各教科とのつながりを意識したカリキュラム・マネジメントを行い、総合的に考える力を身に付ける。	A	・校内研究を中心に、児童自身に付けさせたい姿を全職員で共有し、授業づくりに取り組んできた。その成果が表れ、94%の児童が「授業が分かりやすい」と回答している。学力状況調査等の結果を分析・考察し、基礎基本の定着に力を入れていくことを全職員で確認している。国語と算数のスキルタイムでは、週ごとに基本と応用問題を繰り返し学習した。アンケート結果の「主体性」においても、中間評価から2%向上しており、目標を達成することができた。 ・家庭学習においては、目標に届かず、67%の達成率であった。低学年は88%と到達できているが、上学年になると割合が下がっている。出し方など工夫を行っているものの、家庭学習の定着は今後の課題である。	A	・学校行事や評議員会の際に各学年の授業参観をさせてもらっているが、日頃の児童の様子を確認している訳ではないので、全体を評価するのは難しいと感じている。 ・先生方は、児童の目標でユーモアを交えながら適切に指導されていると思う。今後改善や工夫を蓄ねながら、子どもたちが自ら考える姿勢を養うことで学力の向上につながるのではないかと感じる。家庭学習も学力の向上には欠かせないものだと思うので、保護者への理解を促進してほしい。 ・授業している児童が少ないようだ。黒川町では、「家族連絡会」、「おはなしどんぐり」などと役割に即して特色ある活動をされており、学校や保育園等とも連携した取組が実施されている。「家族」の取組として学力の向上につながったとの報告もあるとのこと、連携のきっかけづくり、習慣づけに連携・利用を検討されたらどうかと思った。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	「人権意識の向上に努めている」と回答した児童80%以上 「道徳の勉強したときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童80%以上 いじめのないよい学校と回答した児童が80%以上 子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者80%以上	・たて割り班活動や年に3回以上実施する。「ほかほかタイム」で人権の話をする。「ほかほかタイム」を発行して保護者にも啓発する。 ・年に1回「ふれあい道徳参観」を実施する。 ・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCとSSWなど関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート(児童・保護者)や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの実態を把握し早急に取り組む。	A	・「人権意識の向上に努めている」と回答した教師が98%となった。 ・「道徳の勉強をしたときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童が98%となった。	A	・学校生活、社会生活において、大切な心の成長を引き続き育んでほしいと思う。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②規則正しい生活(適度な睡眠時間の確保、適度な運動量の確保)を意識した生活をしていると自覚している児童90%以上 ③「健康に食事は大切」と回答している児童85%以上	・昼休みの外遊びを推奨するとともに、体育的行事に関連したスポーツ大会を昼休みの最後10分程度設ける。 ・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。 ・栄養教諭、学校栄養職員と連携して食に関する指導を年2回行う。 ・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。	B	・スポーツチャレンジ大会に向けて昼休みの終わりの10分前には、運動班で協力して80の手遊びやダンス・ゲーム、みんなで輪くりに取り組むことができた。学年でもの準備の準備をしているクラスが多く、どの班も初めから積極的に取り組むことができていた。また、準備体操としてラジオ体操を取り組むこともできた。 ・規則正しい生活を意識した生活を行っている児童は84%と前期に比べると2%向上している。気温が下がって来て運動しやすくなったことが関係していると考えられる。その一方、目標の80%にはまだ届いていない。日々の児童の発言から、睡眠時間が関係していると考えられる。特に中・高学年は学級通信やチェック週間等を活用して日頃から指導していく必要がある。	B	・アンケートでは成果指標が84%となっており、概ね達成できていると思う。今後子どもたちには、限られた時間の使い方を学んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○教育活動の整理・合理化	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日以上の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員が割合20%以下	・月曜日から木曜日は、終業時刻から最長2時間以内、金曜日は就業時間1時間以内を目標に退勤するよう全員で取り組む。 ・校時表の見直しや通知業務等の成務事務を行う時期においての、放課後の時間の確保を行う。 ・会議の縮減、会議時間の短縮のために会議資料のペーパーレス化を進め、前日までは資料の確認ができるようにする。 ・長期休暇中に年休がとりやすいように、研修の曜日をもとめる。 ・行事や教育活動の前にも削減できる部分はないかを検討し、行事の後にその振り返りを行う。削減したことが教育的にはどうだったかも検討し、今年度の計画書に結果や改善点を明記しておくことで次回へ繋げる。	A	・通勤時刻を設定することで、職員のほとんどが通勤時刻を目安に業務を行っている。 ・月の時間外在校時間が45時間を超える職員は、平均10%である。 ・セネットでの見直しに関する資料は、通知機能やメッセージ機能で通知し、ペーパーレス化、時間短縮に取り組んでいる。また、裏紙の再利用を促進している。 ・年次休暇取得は、令和7年までに平均11日となっており、もう少し取得を目指したい。 ・各種アンケートは紙ではなくformsで行い、集計等の時間を削減した。	A	・教職員の働き方改革について、実践されているように思います。外部の評価者として、評価しづらいと感じる。
●特別支援教育の充実	○教員の指導力と意識の向上	○特別支援を意図した学級経営や生活指導、支援に取り組んだ教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・リタリコを活用した個別的教育支援計画・指導計画の作成、ケース会議の開催、情報共有	A	・研修会は児童向け、リタリコの方にも含めて3回実施した。 ・職員は気になる子の共通理解を計り、学級経営や生活指導等に活かした。 ・SCやSSW、外部機関とも連携して支援会議を行い、保護者や児童に対応した。	A	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーだけでなく、必要に譲じて専門機関等の意見を聞くなど、ケース会議を開催すべきだと感じる。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ICTの活用	○ICTを活用した授業の取り組みの向上及び、児童の様子観察	○ICTを活用した授業を全体の80%以上のタブレットなどのICT機器を活用することができていると感じている児童80%以上	・定期的に研修や活用の提案を行い、教員全体が授業の中で取り組めやすい環境を作る。 ・「学びポケット」の心の健康を活用し、毎日の児童の様子を把握する。 ・児童のタブレット使用率を高める。	A	・「先生は、電子黒板を使って教材を準備し、わかりやすく授業を進めていますか。」というアンケートに肯定的な回答をする児童が94%となった。	A	・今後も必要な機器等を整備するなど、ICTを推進し、分かりやすく効果的な授業を子どもたちに提供してほしい。
○地域と連携した教育活動	○地域の中の学校づくり	○心づくりの「地域のとを学習したり、学習を生活に役立てるために、一生懸命勉強していますか。」「の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を確認し、地域学習の実態を知る。	・地域連携会議を年2回開催し、体験活動のねらい等を地域の方々と共有する。 ・地域の各機関と連携して体験活動を行うことで、地域のよさを確認し、郷土愛を育む。 ・各教科とのつながりを意識したカリキュラム・マネジメントを行い、総合的に考える力を身に付ける。	A	・全学年が計画的に各機関と連携を取り、地域の特徴や人々の繋がりを実感できる体験活動を行うことができた。アンケートにおいても中間評価から2%向上し、84%の児童が地域学習をしながら自分の生活と関連させることができたと思っており、目標を達成している。来年度も牧島地域ならではの交流を、カリキュラムを考えながら進めていく。	A	・校長先生をはじめ、先生方は地域との連携を意識され、体験活動等を実施されていると感じている。学校だけで地域との連携が難しい場合は、コミュニティセンターに相談してほしい。
●…県共通 ○…学校独自 ●…志と誇りを高める教育							
5 総合評価・次年度への展望	<p>情報リテラシーなどメディアの付き合い方について育友会教育講演会や学級活動等で啓発を行ってきたが、テレビ等の視聴時間が多く、家庭学習の時間が十分確保できていない。家庭学習の大切さやゲームや動画等の視聴時間に関する家庭でのルールを決めて実行できるように、これからも学校と家庭が連携して改善に努める。</p> <p>基礎学力の定着を図るために、ICTを活用した児童が主体的に取り組む授業づくりや家庭学習でのタブレットの活用、読書(家読等)の推進に取り組んでいく。来年度は、教科を絞り授業改善にも取り組む。</p> <p>今年度は5・6年生のキャリア教育を行い、故郷で働く人々について伊万里を見直さすきっかけとなった。地域との連携を通して保護者、地域、学校が協力し、児童がふるさとのよさを知り、自分のキャリアステージについて考える教育活動に取り組んでいく。</p>						